

## 日本応用動物昆虫学会誌投稿規定

(2018年11月25日改定)

1. 一般会員、学生会員および海外会員 (A, B) は日本応用動物昆虫学会誌へ投稿ができる。共同執筆者に非会員を含めることができるが、第1著者は本学会員であることを原則とする。共同執筆者に投稿者として会員が含まれていれば、非会員であっても第1著者となることができるが、非会員のみの投稿では、投稿者は原著論文、総説、1編につき10,000円 (海外12,000円)、テクニカルノート、短報1編につき5,000円 (同7,000円) を支払った場合にこれらを投稿できる。なお本学会が依頼した原稿は、この限りでない。
2. 論文は、原著論文、テクニカルノート、短報、総説、および編集委員長が認めた形式を受け付ける。内容は、応用動物学、応用昆虫学、環境昆虫学および農薬 (殺虫剤) などに関する未発表のものに限る。原稿は必ず原稿執筆要領に従って執筆する。これに従わない原稿は受領しない。テクニカルノートは、新しい手法や既存の手法の改良、飼育法などについて記述した報告である。
3. 投稿に先立ち、英文アブストラクト、図表の説明などは英語を母国語とする人などの校閲を受けていることを原則とする。編集事務局で英文校閲が必要と認めた場合は、再度、英文校閲を行う。
4. 投稿は、原則としてメールによる電子投稿によって行う。投稿原稿は下記宛に送付する。本文と図表を別ファイルとして添付したものは受け付けない。必ず、本文と図表を一つのPDF形式のファイルとして送付する (3MB以内)。拡張子 (.pdf) の付加を忘れないこと。図表は、本文の最後にページを変えてまとめる。なお、本文は、英文校閲などの手続き上、ワード形式で執筆しておくことが望ましい (詳しくは原稿執筆要領参照)。送付状は応動昆虫ウェブサイト (<http://odokon.org/>) からダウンロードし、必要事項を記入の上、原稿とともに別ファイルとして添付する。なお、紙原稿でも投稿を受け付けるが、その際には、図表も含めて原稿1セットに原稿送付状を添えて郵送する。原稿が不備でない限り、受領日は原稿が編集係に到達した日とする。
5. 投稿原稿の採否は編集委員会が決定する。編集委員会は、2名以上の査読者の意見に基づいて、採否、修正の必要性などを決定する。編集委員会による査読終了後、論文体裁の整った原稿に対し編集委員長が登載決定を行う。なお修正を求められた原稿で、3か月以内に返送されないものは受領を取り消す。
6. 登載決定後、事務局から個別にワード形式の原稿および図表ファイルの提出を求められる。この際、図のファイル形式は、TIFF, EPS, PPT, JPEG が望ましい。論文全体のファイルサイズが10MB以上の場合、CD-Rにより提出する。電子ファイルに変換できない写真などは、郵送しても構わない。カラーページは、1ページにつき30,000円が追徴される。ただし、冊子体を白黒、pdfをカラーとする場合は追徴されない。pdfのみカラーを希望する場合は投稿時に申し出ること。
7. 校正は原則として初校のみを著者校とする。著者校の折には原稿は送付しないので、必ず原稿控えを保存されたい。校正は誤植の訂正だけにとどめ、内容の変更は認めない。

8. 既掲載原稿は返却しない。返却を必要とする図表があれば切手を貼付した返信用封筒を添えて投稿時に申し出ること。
9. 印刷頁数が引用文献を除く制限頁数 (原著論文: 8ページ、テクニカルノート: 4ページ、短報: 4ページ、総説: 10ページ) を超えた部分は著者負担とする (半頁につき10,000円)。
10. 別刷は、すべて著者負担とする (1頁当たり20円、製本代1部25円)。原稿送付状に合計部数を明記し、50部単位で希望部数を申し込む。
11. 投稿規定および原稿執筆要領について疑義のある場合は、直接編集委員長に問い合わせられたい。

### 【原稿の送付先】

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16  
 一般財団法人 学会誌刊行センター  
 日本応用動物昆虫学会誌編集係  
 e-mail: [odokon@capj.or.jp](mailto:odokon@capj.or.jp)

### 和文誌原稿執筆要領

1. 原稿は、約20cm×30cm (A4判) の用紙にヨコ書き、1ページ約18行、フォントMS明朝、12ポイント、用紙の上下左右は約3cmあけて作成すること。句読点は全角の「,」と「.」を使用する。本文は、受理後の英文校閲などの手続き上、MS-Wordで作成することを推奨する。また、通し番号を打ち、図表を除く和文標題から引用文献リストまでの全ての行の左に通し番号をつけること。生物名はカタカナ、学名はイタリックとし、数字は算用数字、漢字は専門用語を除き常用漢字を用いる。昆虫の学名等は、本文中で最初に記述する場合は、例えばニカメイガ *Chilo suppressalis* (Walker) のように学名および命名者名を付して示す。学名は、「農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版 (2006)」などによられたい。学術用語はなるべく本学会編「応用動物学・応用昆虫学学術用語集第3版」(2000)によられたい。農薬名は原則として一般名を用いる。
2. 原著論文は刷り上り8頁以内 (引用文献を除く) とし、原稿の第1頁は和文標題、簡略標題 (20字以内)、著者名、所属、英文標題、英文著者名、英文所属および必要な脚注だけとし、2頁目より本文の記述に入る。和文標題および英文標題に動物種名を入れる場合はその後ろに ( ) 付きで (目名:科名) をそれぞれ和文および英文で記述する。標題中の学名には命名者名を記述しない。本文の内容は、英文アブストラクト (200語以内)、英語キーワード (5語以内、セミコロンで区切り、一番最初の語の先頭文字だけ大文字)、緒言、材料および方法、結果、考察 (あるいは、結果および考察)、摘要、引用文献、図の説明、表、図の順番とする。図の説明は、引用文献の後にページを変えて、すべての図の説明を記載する。表は、1ページ1表とし、図の説明の後にページを変えて、順番に付ける。図は表の後に順番にページを変えて付ける。
3. テクニカルノートおよび短報は刷り上がり4頁以内 (引用文献を除く) とし、記述は原著論文に準ずる。本文の最初に100語程度の英文アブストラクトと英語キーワード (5語以内) を

付してもよい。

4. 総説は刷り上がり 10 頁以内 (引用文献を除く) を原則とする。記述は原著論文に準ずる。本文は内容に応じた項目に分けて記述し、本文末尾に引用文献を付す。英文アブストラクト、摘要を付してもよい。

\*細部については、以下に要領をまとめたので熟読願いたい。

#### I) 著者所属

—(和文標題)—

—(簡略標題 (20 字以内))—

徳丸 晋<sup>1,\*</sup>・山田 佳廣<sup>2,†</sup>・秋野 順治<sup>2</sup>・刑部 正博<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup> P 県農業試験場

<sup>2</sup> X 大学農学部

—(英文標題)— Susumu TOKUMARU,<sup>1,\*</sup> Yoshihiro YAMADA,<sup>2,††</sup> Toshiharu AKINO<sup>2</sup> and Masahiro OSAKABE<sup>1,2</sup> <sup>1</sup> P Agricultural Experiment Station; 5-1-4 Kome, Namba, Osaka 901-0001, Japan.

<sup>2</sup> Faculty of Agriculture, X University; Nakano, Nakano-ku, Tokyo 165-0001, Japan. *Jpn. J. Appl. Entomol. Zool.*

(脚注) \* 責任著者 (または, \* E-mail: ○○@xx.zz.jp)

(脚注) † 現在 W 大学農学部

(脚注) †† Present address: Faculty of Agriculture, W University, Daizu, Akita 101-0011, Japan.

詳しい書き方:

各論文著者名について、その姓名の区別がつくよう、姓と名の間に全角空きを挿入する。また、所属記号は「1」から「6」までの数字を使い、すべての著者に上付として付ける (ただし、所属が1つの場合は付けない)。連絡者には「\*」(アステリスク) の記号を付け、それ以外の参照事項があるときは「†」や「††」(剣印) などを付ける。英文表記では、各所属の組織・機関名とその住所の間を「;」(セミコロン) で区切る。

#### II) 英文アブストラクト

英文による 200 語以内の要約で (短報の場合は 100 語程度)、標題、著者名、所属およびその所在地、*Jpn. J. Appl. Entomol. Zool.* と略した会誌名の後に、行を改めて記述する。アブストラクトの内容は、それだけで本文の内容がわかるようにする。本文中の図表、引用文献は引用しない。

#### III) キーワード

原著論文はアブストラクトの下に、短報はアブストラクトまたは著者英文アドレスの下に Key words: として 5 語以内の英語のキーワードを付ける。キーワードの最初の単語の先頭文字は大文字にする。各語は; (セミコロン) で区切る。

(例) **Key words:** Pheromone; light intensity; sticky trap; apple orchard; oviposition

#### IV) 単位と略号

国際単位系 (SI) に準拠する。当面使用できる非 SI 単位などは: min, h (時), d (日), y (年), °C, ha, t (トン), L (リットル) または °, ', " (角度) などとする。単位の略号は複数形にしない。例えば, hours を hs としない。リットルは L, ミリリットルは ml とする。また、日度や日齢などは 430 degree-days, 2-day-old と単位を略さずに記述する。なお、英文の場合の日付け表示は月日年

の順とする (例; April 1, 1991; June 28, 2003 など。本文中では月の表記を略さない)。

単位と数値の間は半角空ける。°C や % のような記号の場合は空けない (例; 15 L, 5 d; 30%, 98°C)。光周期について記述する場合, 16L:8D または L16:D8 のように示してよい。

#### V) 表

表とその説明は 1 ページに 1 つとし、和文または英文で書き、一括して原稿の末尾にまとめる。表中の文字や数字は、印刷時に 8~9 ポイント程度になることを想定し、これ以上小さな文字は使わない。表の大きさは幅 8.0 cm×長さ 22.5 cm あるいは、幅 16.0 cm×長さ 22.5 cm に収まるようにする。幅 22.5 cm×長さ 16.0 cm に収まる表も受け付ける。

#### VI) 図

原図全体は大きさを幅 16.0 cm×長さ 22.5 cm 以内に収まるように大きめに作成し、印刷時に幅 8.0 cm に縮小しても分かるように鮮明なものとする。図中の文字も縮小したときに最低でも 9 ポイント程度になるように大きめで、太めに作成する。投稿時は、PDF に変換するため解像度が低くなるが、変換後の図が査読者に読めるようにする。1 ページ 1 図とし、各図には著者名、簡略標題名、図の番号を明記し、原稿末尾の表の次にまとめる。各図の説明は別紙にまとめて原稿末尾の引用文献の次のページに付ける。ハーフトーンの使用は避け、できるだけコントラストの強い図とすること。特にグラフなどでは、線や網掛けの種類が区別可能なようにすること。

#### VII) 文献

本文中での引用は、「著者名 (年号)」または「(著者名, 年号)」とする。共著者については 2 名の場合は全員を、3 名以上の場合には第 1 著者名に「ら」あるいは“et al.”を付して他を省略する。同一著者かつ同一年のものについては、年号のあとにアルファベットを付して、1975a, 1975b, のように区別する。同一箇所に複数の文献を引用する場合、引用部分の ( ) 内は発表年順 (同一年のものは著者の姓の ABC 順) に並べる。

講演または講演要旨の引用は行わない。卒業論文や修士論文の引用は行わない。博士論文は引用可。私信、個人的観察、および未発表データの引用は原則として不可とする。

末尾の引用文献リストでは、本文中に引用した文献だけを第 1 著者姓の ABC 順に配列し、著者が 3 名以上 9 名までは全員を列記する。ただし、10 名以上の場合には、第 1 著者名に「ら」あるいは“et al.”を付して省略する。和文文献には英語翻訳表記も記載する。ただし、短報の場合、単行本以外では標題を省略する。2 行以上にわたる場合は、2 行目以降の先頭を全角 2 文字分下げる。

雑誌名は略称で表記する、日本農学進歩年報、日本自然科学雑誌総覧、ISI Journal Title Abbreviations (<https://www.library.caltech.edu/journal-title-abbreviations>) などを参照する。これらに掲載されていないものは、雑誌の最新号を参照し、略称を確認する。雑誌名や本のタイトルの英文は、イタリックで表記する。(印刷中) または (in press) を付すことのできる引用文献は、その報文がすでに受理され、少なくとも登録予定の巻 (volume) が決定している場合に限る。Web page の引用も可能だが、最低限にとどめる。その際、本文中に URL を記載するだけでも良い。Online Early などの Online Journal は、DOI または巻頁が決まっている場合の

み引用を認める。公式な英語タイトルのない文献については著者が英訳して示す。その際、著者が英訳したタイトルを“ ”で挟む。著者が英訳したタイトルについても、原則として投稿前に英語を母国語とする人などの校閲を受ける。

詳しい並べ方；第1著者の姓が同じ場合は、著者が1名の文献を優先し、次に著者2名のを第2著者の姓のABC順に並べる。著者が3名以上の場合は、第2著者の姓にかかわらず、発表年順に並べる。細部は、下記の例を参照。

### 1. 単行本：

ダニレフスキー，ア・エス (1961) [日高敏隆・正木進三 訳，1966] 昆虫の光周性. 東大出版会，東京. 293 pp. [Danilevsky, A. S. (1961) [Hidaka, T. and S. Masaki Japanese translation, 1966] *Photoperiodism and Seasonal Development of Insects*. University of Tokyo Press, Tokyo. 293 pp.] …訳書の例. 原著者名は訳者に従う。

Gause, G. F. (1934 [1964]) *The Struggle for Existence*. Hafner Publ. Co., New York and London. 163 pp. …出版社を変えて再版された場合には、再版年を [ ] で示し、出版社名と頁数は再版本による。

Macfadyen, A. (1963) *Animal Ecology: Aims and Methods*. 2nd ed. Sir Isaac Pitman and Sons Ltd., London. 344 pp. …副題は：でつなぐ。

安松京三・山崎輝男・内田俊郎・野村健一 (1972) 応用昆虫学 (改訂3版). 朝倉書店，東京. 363 pp. [Yasumatsu, K., T. Yamasaki, S. Utida and K. Nomura (1972) *Applied Entomology*. 3rd ed. Asakura Book Co., Tokyo. 363 pp.] …改訂版では版数も示し、年号は改訂版の発行年とする。363 pp. は最終頁数。

農山漁村文化協会 (編) (2016) 天敵活用大事典. 農山漁村文化協会，東京. 824 pp. [Rural Culture Association Japan (ed.) (2016) *Encyclopedia of Natural Enemies and Their Use for Biological Control in IPM*. Rural Culture Association Japan, Tokyo. 824 pp.] …編著者名による全文引用の例。

### 2. 単行本中の分担執筆論文：

Konishi, M. and Y. Ito (1973) Early entomology in East Asia. In *History of Entomology* (R. F. Smith, T. E. Mittler and C. N. Smith, eds.). Annual Review Inc., Palo Alto, pp. 1–20.

小野勇一 (1967) 動物の個体数調査法. 生態学実習書 (生態学実習懇談会 編). 朝倉書店，東京, pp. 87–107. [Ono, Y. (1967) Estimating abundance in animal populations. In *Ecological Methodology* (Ecological Training Group, ed.). Asakura Book Co., Tokyo, pp. 87–107.]

### 3. 雑誌など定期・不定期逐次刊行物：

DeBach, P. and M. Rose (1977a) Upsets caused by chemical erad-

ication. *Citrograph* 62: 162–164; 180–182. …雑誌名が1語から成るときは省略形としない。頁が分かれているときは；でつなぐ。

DeBach, K. and H. Rose (1977b) Environmental upsets caused by chemical eradication. *Calif. Agric.* 30(7): 8–10. …各巻が通し頁制でない雑誌については、括弧内に号を示す。

林屋慶三・北尾元一・山崎敦子・熊沢誠人・岡田裕伸・西田 順 (1979) 家蚕性フェロモンに関する研究 I. 雌蛹体液中にみられる性フェロモン活性. 応動昆 23: 28–32. [Hayashiya, K., M. Kitao, A. Yamazaki, M. Kumazawa, Y. Okada and J. Nishida (1979) Studies on the sex pheromone of the silkworm, *Bombyx mori* L. Sex pheromone activity found in hemolymph of the female pupae. *Jpn. J. Appl. Entomol. Zool.* 23: 28–32.]

北村泰三 (1976) 花粉媒介昆虫マメコバチの生態と飼育方法. 今月の農業 20(5): 42–45. [Kitamura, T. (1976) Biology and rearing methods of insect pollinator, *Osmia cornifrons* (Radoszkowski). *Japan Agricultural Technology* 20(5): 42–45.] …各巻が通し頁制でない雑誌の例。

短報の場合、単行本以外は、標題は省略。

(英文雑誌の場合)

Sasakawa, M. (1992) *Appl. Entomol. Zool.* 27: 571–574.

(和文雑誌の場合)

大野 豪・浦崎貴美子・小濱継雄 (2009) 九病虫研究会報 55: 115–117. [Ohno, S., K. Urasaki and T. Kohama (2009) *Kyushu Pl. Prot. Res.* 55: 115–117.]

日本典秀・長坂幸吉・後藤千枝・小原慎司・手塚俊行 (2015) 関東病虫研報 62: 125–129. [Hinamoto, N., K. Nagasaka, C. Goto, S. Kohara and T. Tezuka (2015) *Ann. Rept. Kanto Pl. Prot. Soc.* 62: 125–129.]

(英文単行本中の論文の場合)

Howard, R. W. (1993) In *Insect Lipids: Chemistry, Biochemistry and Biology* (D. W. Stanley-Samuelson and D. R. Nelson, eds.). University of Nebraska Press, Lincoln, pp. 179–226.

(Web page の場合)

OECD (2004) Guidance for information requirements for regulation of invertebrates as biological control agents. Series on Pesticides. <http://www.oecd.org/dataoecd/6/20/28725175.pdf>

### VIII) その他

文部科学省・日本学術振興会科学研究費ならびにこれに準ずるものによる研究論文には、その旨を緒言末尾の謝辞に明記する。著作権：掲載論文 (総説・書評を含む) の著作権は学会に帰属する。これらの一部または全体を転載するときは編集委員長の事前の許可を要する。英文誌原稿については、*Appl. Entomol. Zool.* およびその投稿規定を参照されたい。

# 和文原稿（原著・テクニカルノート・短報・総説※）送付状

（発送 年 月 日）

※※受付 年 月 日

※※ 受領番号 J

著者名（所属）	標 題 ・ 副 題 名
第 1	
第 2	
第 3	
⋮	
⋮	
（全員記入のこと）	
簡略標題（主題の）	

原稿枚数 本文(英文アブストラクト・引用文献リストを含む) ..... 枚 図 ..... 枚 図 ..... 枚	図の説明 ..... 枚 表 ..... 表 (返却希望のものには○印。ただし、切手つき返信用封筒を添えること)
英文校閲を受けていますか はい, いいえ (いいえの場合, その理由 )	
別刷希望部数	計 部
連絡, 校正送付先 (住所, 氏名) 〒	Tel Fax E-mail
別刷代請求送付先 (住所, 氏名) 〒	

※どれかを丸で囲む  
 (※※印は事務局記入欄)

送付先 〒113-0032

東京都文京区弥生 2-4-16  
 一般財団法人 学会誌刊行センター  
 日本応用動物昆虫学会誌編集係

切りとり線